

行政視察等報告書

安来市議会議長 様

報告者 会派 燦友会
議員 作野 幸憲

この度、行政視察を行いましたので報告します。

記

期日 平成29年3月28日(火)

行先 岡山県総社市
岡山県高梁市

日程 別紙のとおり

参加者 上廻芳和、金山満輝、梅林守、遠藤孝、井上峯雄、
石倉刻夷、作野幸憲

合計7人

同行者 佐々木厚子

視察内容 別紙のとおり

行政視察等報告

(会派 燦友会)

<視察目的>

・岡山県総社市

現在安来市では史跡富田城整備事業が進められているが、入り込み客数の見通しや目標人数が設定されておらず、今後の大きな課題となっている。そこで国指定史跡「鬼ノ城」の管理状況について調査・研究し、参考にするため。

・岡山県高梁市

現在安来市では史跡富田城整備事業が進められているが、入り込み客数の見通しや目標人数が設定されておらず、今後の大きな課題となっている。そこで重要文化財「備中松山城」の管理状況について調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察・研修先	視察施設	視察内容
平成 29 年 3 月 28 日 (火)	岡山県総社市	国指定史跡「鬼ノ城」 周辺	国指定史跡「鬼ノ城」の管理状況について
平成 29 年 3 月 28 日 (火)	岡山県高梁市	国指定重要文化財 「備中松山城」周辺	国指定重要文化財「備中松山城」の管理 状況について

<視察概要報告>

1. 岡山県総社市

●対応者： 総社市教育委員会 教育次長 服部 浩二様
 " 文化課主幹 平田 壮太郎様
 " 文化課 前角 和夫様

●場 所： 国指定史跡「鬼ノ城」周辺

●概 要：

「国指定史跡鬼ノ城の管理状況について」

鬼ノ城（きのじょう）は、岡山県総社市の鬼城山（きのじょうさん）に築かれた日本の古代山城（神籠石式山城）で、桃太郎伝説としても有名です。7合目～8合目にかけて、約2.8kmにわたる城壁が取り巻き、城壁には4つの門と6つの水門が付設されています。その内部からは、建物や倉庫群・水場・のろし台、鍛冶工房などが発見されています。鬼ノ城は築造時期が不明な謎の城でしたが、最近の発掘調査の結果から、7世紀後半に造られた可能性が高いということでした。城跡は、1986年（昭和61年）3月25日に指定された、国指定の史跡「鬼城山」に含まれています。本格的な整備は平成12年から25年にかけて10億8000万円かけて行われ、現在年間約5万3000人の来訪者があるそうです。（年間維持費は900万円以内、人件費が420万

円余、他は除草や看板修理などの維持管理費)

〈考察〉

○巨費（10億8千万円：国50%補助）により整備された古代史跡は、壮大なものであった。土壁の復元箇所が風雨で風化し、今後の管理が大変であると感じた。

○年間来訪者は5万3千人程度で、これを超えると水利が悪く、循環式トイレの限界で



あり、特別に広報宣伝活動の声はなかった。入場料・入山料も無しで、「自然と歴史あふれるフィールドミュージアム」の自然散策マップからその姿勢が伺えた。

○日本100名城に選定されているが、古代山城を学習するには、再考であると感じた。

○7世紀後半に築城さ

れたと言われている城壁の版築土塁（高さ6m）の一部復元がなされ、当時の攻撃に対する防御施設の考え方が垣間見えた。

○維持管理費は年間900万円と少ないが今後更なる計画の策定中と聞く。来訪者は53000人であるがこれ以上は望まないとのこと、なぜなら史跡の管理が難しくなるからとのことでした。

○入場者の人数把握には、赤外線カウンターが設置してあり、参考になった。

○山の上なので水がないのが大変。そのために軽食・喫茶・土産物売り場も一切なかった。このことは残念に思った。

○観光というよりは、文化財重視の史跡であった。食事・土産物等については、市内の施設を案内することで対応しているとのこと。こういう考え方も良いと感じた。

2. 岡山県高梁市

●対応者：	高梁市観光協会	常務理事	山田 敦様
	〃		井上 晴暁様
	高梁市教育委員会	社会教育課	樋口 英行様

●場 所：国指定重要文化財「備中松山城」周辺

●概 要：

「国宝備中松山城の管理状況について」

高梁市の市街地の北端にそびえ、「おしろやま」の愛称で市民に親しまれている、『臥牛山(標高約480M)』。北から、「大松山」「天神の丸」「小松山」「前山」の四つの峰からなり、南から見た山容が、草の上に伏した老牛の姿に似ているとして、「老牛伏草山」とか「臥

牛山」などと呼ばれており、備中松山城はその頂を中心に全域に及んでいます。現在、一般に「備中松山城」と呼ばれるのは、この内の小松山の山頂(標高約四三〇M)を中心に築かれた近世城郭を指しており、天守の現存する山城としては随一の高さを誇ります。城内には天守、二重櫓、土塀の一部が現存しており、昭和16年には国宝(昭和25年文化財保護法の制定により重要文化財)の指定を受けています。

また、平成6年度からはこれら重要文化財を中心に、本丸の復元整備が行われており、本丸の正面 玄関ともいえる本丸南御門をはじめ、東御門、腕木御門、路地門、五の平櫓、土塀などが忠実に基づいて復元されています。管理団体は高梁市で、施設の日常管理と観光客対応については高梁市観光協会に委託されています。維持管理費は年間約1200万円で、入城者数(入城料大人300円、小中学生150円)は、平成28年度は過去最高の10万人を更新したとのことでした。

〈考察〉

○施設の日常管理、観光客対応は高梁市観光協会に委託されている。文化財に関する部分については高梁市教育委員会の直営でなされている。昭和31年に臥牛山のサルが生息地が天然記念物指定されていて、サルによるいたずらもあり管理に支障をきたすときもあるとのことであった。

○市の管理費は、12000万円弱、日常管理や観光客対応は観光協会委託となっており、入城料並びにシャトルバス代は観光協会の収入となっており、管理棟、バス運行等、増加傾向にある入場者に呼応した対応が見受けられた。物品販売も順調とのことだった。

○春休みに入っているが、遠方からの来城者と出会うなど「天空の山城」が、歴史ファンにオールジャパン化していると感じた。

○天然記念物臥牛山のサルの保護等、ユニークな取り組みが教育委員会所管で実施されており、特記しておきます。

○月山富田城も整備が終われば、大勢の方々が来られると思う。それまでに管理運営について早い段階で関係者(安来市、教育委員会、観光協会等)の協議が必要と感じた。



以上